

東北農林専門職大学

TOHOKU PROFESSIONAL UNIVERSITY
OF AGRICULTURE AND FORESTRY 2025



*GLOCAL
RENOVATOR*

— 農林業に新風を —

GLOCAL RENOVATOR

— 農林業に新風を —

変革から、発展へ。 農林業新時代。

Management for Agriculture and Forestry

これからの農林業を変革する人材を
新しい専門職大学が育てていきます。

社会・世界が大きく変化する中、地域の主力産業である農業・森林業が
今、変化と希望の時を迎えています。

農林業を持続可能な産業として発展させ続けるために、

農林業分野の4年制公立専門職大学という新しい学びのステージが誕生しました。

東北農林専門職大学ではスマート農林業など最新の生産技術と、

国際市場にも通用する経営理論、そして農業・森林業の知識、幅広い教養を身につけることができます。

やがて世界の視点(GLOBAL)と、地域(LOCAL)の細やかさを備え、

農林業の枠組みを変革できるGLOCAL RENOVATORとして

これからの時代の中核となり活躍してくれる人材がここから巣立っていきます。



こんな人に東北農林専門職大学の門を叩いてほしい

東北農林専門職大学のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校で習得すべき基礎学力を身に付けている人
2. 論理的に思考し、表現できる人
3. 多様性を認め、他者と協働して行動し、課題に対して主体的に取り組む努力ができる人
4. 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、柔軟な思考力を備えている人
5. 農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある人

変革の時にこそ好機をつかめ。 次世代の農業・森林業に 未来がある。

今、世界は大きく変わりつつあります。マーケットは大きくなり、AI、DXなどかつてない技術革新が進んでいることに加え、SDGsに代表される環境共生型社会の構築への取組みが重要になっています。さらに、各地の紛争の影響など日々国際情勢は変化しています。こうした世界的な変化の時代は、日本の基盤を支える農業・森林業がさらに発展していく好機でもあったと考えています。

そのためには先人の知恵や技術に加えて、時代を超えた理論と未来に対応する先進技術も必要とされます。

そんな時代の要請に応じて2024年4月、山形県新庄市に東北農林専門職大学が開学しました。優れた技術と経営力、そして国際競争力を持って農業・森林業をリードし、大きく羽ばたく人材をここから育成してまいります。

農業・森林業には、若い力と情熱をかける価値と魅力があります。私たちは、そのために数多くの教育・研究のフィールドを山形県を中心とする東北全体に準備して、皆さんをお待ちしています。私たちと一緒に、山形・東北、そして日本の農業・森林業の未来を切り拓いていきませんか。

東北農林専門職大学 学長
神山 修 Osamu Kamiyama

PROFILE

昭和60年4月農林水産省入省
在ドイツ日本大使館一等書記官、茨城県農林水産部長、東北大学大学院法学研究科教授、文部科学省大臣官房審議官、近畿農政局長、農林水産政策研究所長など、海外、地方公共団体、大学、他省庁を含む農林水産行政にとどまらない多彩な行政分野を経験

INDEX

変革から、発展へ。農林業新時代。 ……………	P1
東北農林専門職大学がいま、注目されるワケ POINT 10 ……	P3
農業経営学科生がホンネで語る 農トーク ……………	P5
農業経営学科で学ぶ ……………	P7
農業経営学科のカリキュラム ……………	P11
森林業経営学科生がホンネで語る 林トーク ……………	P13

森林業経営学科で学ぶ ……………	P17
森林業経営学科のカリキュラム ……………	P19
BIG FIELD(学びのフィールド) ……………	P21
CAMPUS MAP 施設・キャンパス紹介 ……………	P23
学費・奨学金・入試情報、就職支援情報 ……………	P25
教員情報 ……………	P26

ここから君の未来が始まる!

東北農林専門職大学が **いま、注目**されるワケ **POINT 10**

1. 大学より、専門職大学、という選択。

時代が求めた4年制大学の新しい制度。
これからの社会で活躍を期待されています。

「専門職大学」は、2017年の学校教育法の改正によって新たに設定された大学です。大学のうち「深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること」を目的とするものが専門職大学です。修業年限は4年。卒業すれば「学士(専門職)」の学位が得られます。専門知識や技術の習得に加えて、企業や施設などでの実習で、実社会で実際に働きながら知識や技術を磨き上げる機会が充実しています。



2. 農業・森林業だけじゃない。学べることは多種多様。

4年制大学だからこそ、幅広いカリキュラムを選択できて将来の可能性も広がります。

農業経営学科、森林業経営学科ともに専門分野の知識だけでなく、デザイン論や発酵学・醸造学、建築学など関連する他分野の幅広い科目を選択することが可能なので、将来進む道の可能性を広げることができるでしょう。



3. いま農業に未来が来ている。

技術の進歩と時代の変化が農業発展の新たな追い風です。

IT技術の活用によって農業分野のビジネスの可能性が広がっています。デジタル技術により温度管理や水やりなどが容易にできる「スマート農業」が注目され、WEBやSNSを活用したPR・販売はごく普通のことになりつつあります。環境の変化を乗り越え安定した経営を技術とアイデアで実現できる時代といえるでしょう。

4. 森林業サービスの可能性を拓けよう。

日本唯一の「森林業」の学科です。

近年話題の「スマート林業」により、機器の自動化や遠隔操作などで少人数でも木の伐採や搬出ができるようになりました。東北を始めとした山間部は、持続可能な森林資源が豊富な宝の山です。様々な森の恵みに着目すれば、森林ビジネスの可能性は広がります。



5. 国際化に対応した勉強って、何ができるのかな?

世界のマーケットに対応できるよう必要な知識と能力を身につけます。

農業も森林業も国際化することが当たり前の時代です。世界的な視点に立って物事を考えるために国際農業論、国際森林業論など世界の中での自らの位置を理論として学びます。希望する学生には海外実習で学ぶ機会もあります。



6. 実習先を、合計300ヶ所以上確保。

山形県内を中心に、東北全体に特色ある実習先を確保しています。

専門職大学の一番の魅力は実習の充実ぶりです。大規模な稲作経営体や6次産業化※を実践する法人、スマート林業を行う森林業事業体など、山形県、東北をリードする多種多様な実習先を300ヶ所以上用意しています。「臨地実務実習」は2年次から4年次まで毎年30日間、合計90日間を原則同じ実習先で行われ、技術の習得だけでなく、経営戦略や経営理念といった深掘りした学習が可能です。

※6次産業化とは、農業を1次産業としてだけでなく、加工などの2次産業、さらにはサービスや販売などの3次産業まで含め、1次から3次まで一体化した産業として農業の可能性を広げようとするもの。



7. 専門職大学だから先生がハイブリッド!

実際の現場での経験豊富な実務家教員と、研究実績の豊富な研究者教員がいます。

各専攻分野に「研究能力のある教員」と「実務能力のある教員」とを各1名以上配置し、「理論と実践」をつなげるハイブリッドな教育研究ができる体制としています。

8. 質の高い教育を実現できる少人数体制。

少人数教育で、理論と実践をしっかりと学べます。

本学のめざす教育は知識と理論に裏付けられた技術を身につけ、将来、時代の変化に対応した戦略的な農林業経営を行うとともに、地域のリーダーとなる人材を育成することです。そのために選ばれた少数精鋭の学生に、幅広い知識と技術、課題解決の実践的手法などをしっかりと学んでもらいます。

9. キャンパスはどんなところ?

新築の校舎、学内の圃場や演習林など充実した学びの環境です。

新築の校舎は、講義室や実験室など学びの拠点となる教育研究棟と、大講義室や図書館など学生と全国の研究者や地域のみなさんとの交流の拠点となる交流棟の2棟建てとなっています。また、広大な敷地内に圃場やハウス、畜舎、演習林があり、理論と実践を身近に学ぶ環境を整えています。



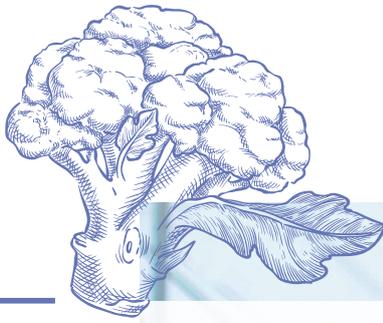
10. 山形県のみなさんが応援しています。



農林業界や行政、地域のみなさんが、新大学の挑戦を応援しています。

山形県内の農林業界、県、市町村、地域のみなさんが一緒になって大学の教育・研究や学生の卒業後の進路を応援する体制となっています。

また、「まつり」や「まちおこし」など地域の活動に積極的に参加することや、地域ブランドや商品開発などで地域の企業などと連携することも想定しています。



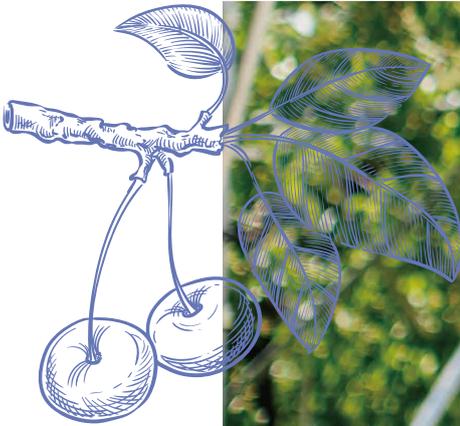
農トーク

学生がホソネ 農業経営学科

スマート農業を リアルに体験。

近年注目されているITを活用したスマート農業を私たちもしっかり学びます。ドローンを活用した農作業を体験したり、大学の附属施設である「スマート農業研究・研修センター」で集積した育成データの分析・活用方法を身につけることができます。将来、より生産性・収益性の高い農業経営をするための貴重な学びの第一歩ですね。

次代の農業は
ここから。



佐々木 麻衣
青森県立三本木農業恵拓高等学校出身

経営者としての学びから

4年間を通して社会人として、企業経営者として通用する人間になるために様々なことを学びます。例えば「組織マネジメント論」や「農業経営分析・計画」などでは、リアルな企業経営上の問題を学び、「マーケティング論」などでは販売戦略を知ることによって市場を意識し、作るだけでなく、買ってもらえる農業経営をしっかりと学んでいきたいと思えます。

農業経営を修得する。

ビジネスとしての

鈴木 優輔
山形県立上山明新館高等学校出身

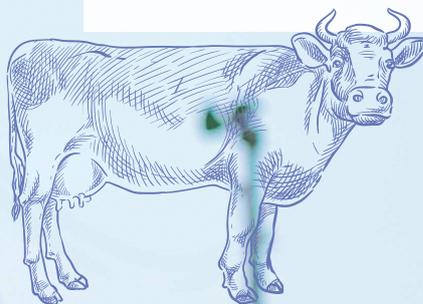
で語る！ のここに注目！

広大な「圃場」から

私たちの

キャンパス内にある「学内圃場」は年間を通じて様々な農作業を体験できる場です。1年次から広々とした環境で、四季の気候に対応してどう作物を栽培するかを実践できます。今は2年次から始まる臨地実務実習で、実際の生産現場に行くことをとても楽しみにしています。

明日が始まる。



世界を意識した 経営のために

1年次から特色ある カリキュラムで学ぶ。

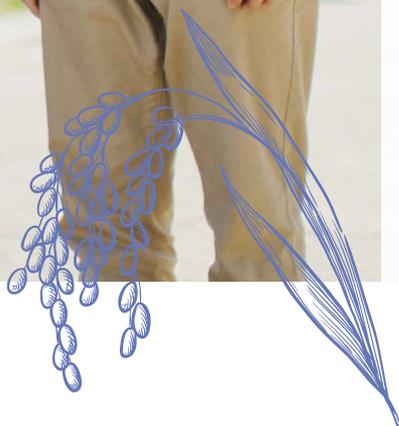
これからは地域特性を活かした生産物を国際市場に売り込んでいくことも必要です。そのため様々なカリキュラムが本学に用意されているのはうれしいですね。グローバルな視点を持った農業経営者となるために1年次からビジネス英語が必修になっていたり、「国際農業論」などが学べます。また附属施設の「気候変動対応型研究・研修センター」では、近年世界で激甚化する気候変動に対応した技術の開発と普及を研究することができ、これからの農業をリードできる教育環境が整えられていると思います。

堀 つぶら

山形県立酒田西高等学校出身

永井 龍雅

群馬県立勢多農林高等学校出身



| 農業経営学科で学ぶ

農業経営の新しい歴史がここから始まる。

農業経営の未来を担う人材が集う

開学のこの日のために、長い時間をかけて多くの人たちが準備に力を注いできました。まず東北地域だけでなく全国からレベルの高い教育者を集めたことは、本学の何よりの優位点でしょう。長年の実績を誇る研究者や、時代の変化を超えて農業の最前線を経験してきた先生ばかりです。

また第1期生は皆やる気に満ちていて、これから新しい大学の歴史を築いていくことにワクワクしています。また農業系だけでなく、普通高校からの出身者も多く、多様なバックグラウンドの学生たちが、新しい農業の未来を創っていくことに期待したいですね。

幅広い視野を持った人材を育成するカリキュラム

農業経営学科は、その素質の発揮に必要な生産理論や技術などの知識と経験を獲得でき、優れた経営を行う経営者に出会い、学べます。生産管理と経営管理などを体系的にそして集中的に学ぶ「職業専門科目」を通して東北の農業の現状と課題を理解し、地域課題の解決方法を考える力を身につけることが可能です。

また、教養を深める英語や情報などの「基礎科目」と、農業経営に活かせる様々な分野の知識を獲得できる「展開科目」で経営者としての視野を広げることができます。そして、学んだことを活かし実践するために自ら目指す農業経営を行うための分析・計画作りを実習先の経営者と教員がサポートします。農業経営者を目指すみなさんを待っています。



東北農林専門職大学
農林業経営学部 学部長
(兼) 農業経営学科 学科長

小沢 亙

Wataru Ozawa

博士(農学)(東北大学)
専門分野: 農業経済学

秋田県立農業短期大学、山形大学農学部等で農業経営・経済の教育と経営効率性、地域の合意形成、農業者のモチベーションを研究。山形県農業・農村政策審議会会長を長年にわたり務める。山形大学名誉教授

先生 × 学生



新しい農業の成功者を目指して頑張してほしい。

若い世代が農業を学び、その中から成功者が誕生すれば、農業の維持、発展につながるだけでなく、この国の未来にきっと光がさすことになるでしょう。本学では農業について、技術や経営理論など様々な分野を理論と実践の両面から学ぶことができます。臨地実務実習(生産現場での実習)では、先進的な生産者の膨大な経験に触れることができ、まさに生きた知識や技術を身につけることができます。卒業後は生産者として、あるいは関連産業における即戦力になってくれることでしょう。4年間で様々な友人、経験豊富な教員、多様な現場と関わることができ、農業において成功するための道を模索することができます。ぜひ、頭を柔軟にし、色々なことを吸収、体験し、試行錯誤から多くのことを学んでほしいと思います。

農業経営学科 講師 森 和也

「食」への興味から幅広い学びの場へ。

もともと食に関する興味が強く、高校時代には「商品開発」や、食のPR活動に積極的に参加しました。進学にあたっては、食品についても幅広い学びができそうなこの大学に興味を持ちました。指導される先生方が公の組織で責任者として経験された方や、長年大学で専門分野の研究された方など経験豊富な方ばかりなのも魅力に感じました。

専門科目以外にも観光や街おこし、デザイン論など幅広いカリキュラムで、将来ビジネスに携わることがイメージしやすいのも実践的だと思います。高校生のみなさんへお伝えしたいのは、この大学が理論と実技をともにしっかり学べること。教室で理論を学び、広々とした圃場で技術を身につけられます。特に実習の機会が豊富なことが、この大学の魅力ですが、さらに農業法人などで「臨地実務実習」が始まれば、現場で生産や経営の実務を継続的に学べるのも大いに楽しみですね。

第1期生として、今は勉強や大学生活を楽しんでいきたいですね。卒業後は、まず農業法人に就職して、農業経営の現場でしっかり経験を積みたいと思っています。そして将来は地域ブランドを立ち上げ、世界に通用する商品に育てていくことが夢のひとつです。

農林業経営学部 農業経営学科

佐々木 麻衣

Mai Sasaki

青森県立三本木農業恵拓高等学校出身



農業経営学科

農業経営のプロフェッショナルを育てる。

農業経営学科では、新しいかたちの農業の中核となるべきリーダーを育成していきます。

これからの時代を担うのは、変化を恐れず、何事にも柔軟に対応できる人材です。

グローバルな市場で勝負する農業の国際化や、最新技術を駆使するスマート農業などに対応できるよう多様なカリキュラムを用意しています。

新しい時代、農業分野の可能性を広げる。多様なビジネスの視点を磨いていく。

学科の特長

1

農業の「生産管理」と「経営管理」の両方の理論を学べます。

最新の技術を使ったスマート農業など生産の現場は大きく進歩しています。基礎から先進的な生産技術まで理解できるよう多角的なカリキュラムを用意しています。また農業をしっかりと事業として運営していくために、経営に関わる知識も学びます。さらに時代の動き、国際情勢を理解することなど柔軟な対応力を身につけることも大切なポイントです。

学科の特長

2

学内外での豊富な実習で学べます。

学内実習

学内圃場で基礎から先進的なものまで生産技術を学ぶ。学内加工施設で6次産業化の基礎から販売まで学ぶ。

実地体験実習

優れた農業経営体で経営実態の理解を深める。

臨地実務実習

東北6県の農業経営体で、生産技術及び経営管理に関する知識、技術、経営戦略等を学ぶ。

国際農業・森林業実習(自由科目)

海外の大学や先進農業地で農業経営の実態を学ぶ。

学科の特長

3

幅広い分野が学べます。

本学科では農業に密接に関連する分野も学修することができます(例えば、食品製造・販売、発酵学・醸造学など)。これらは将来の事業展開や経営のさらなる発展につながる可能性があります。

「臨地実務実習」は2年次から4年次まで毎年30日×3＝計90日間



安定した雇用を守るためにも
しっかりとした経営を
続けていきます。

臨地実務実習先紹介 1

インターネットも活用して、井上農場のファンを増やしたい。

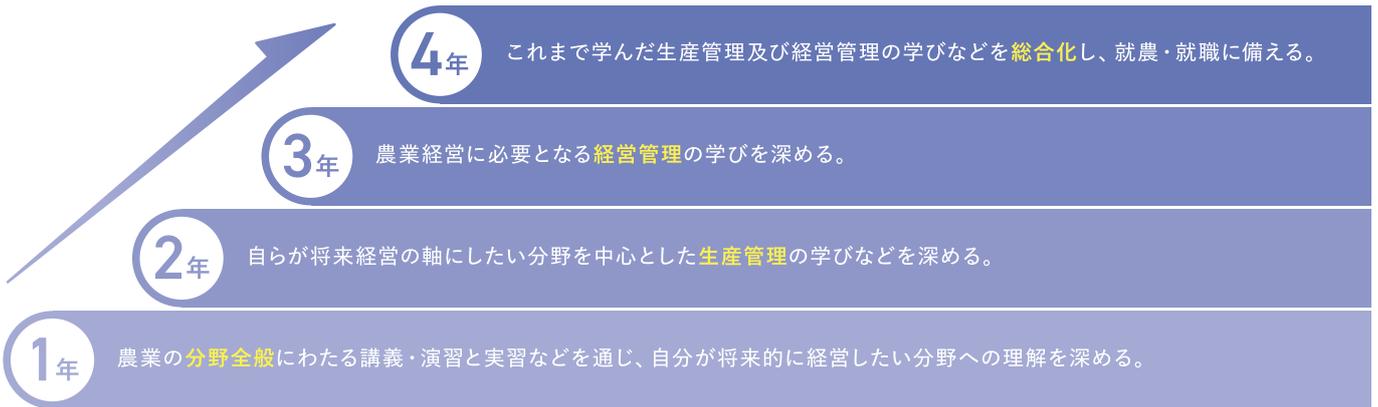
祖父の代から家業として農業を営んできましたが、時代とともに変化している部分があると実感しています。例えばインターネットで米や作物を消費者の方へ直接販売できるようになりました。ただうちではあくまでお客様とつながりを持つひとつの手段として使うよう意識しています。百貨店の展示会などで知った方が買いやすくするなど、顔を知る相手との交流も大切です。井上農場の米だからというファンを作りたいですね。また地域の若い世代が働きたいところとして魅力に感じてもらえるよう環境も整えつつあります。法人化もその一環で、雇用主としての責任も大きくなっていると自覚して安定経営に努めています。



株式会社井上農場
専務取締役
井上 貴利

PROFILE
株式会社井上農場
山形県鶴岡市渡前字白山前14
https://inoue.farm/
交流施設・ライスセンター
山形県鶴岡市渡前字山道東91

4年間の学びのイメージ



令和7年度学年暦イメージ

前期															後期																																												
4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月					1月					2月					3月				
1	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	2	9	16	23	2	9	16	23				
ガイダンス					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					補講 テスト期間 夏季休業					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					冬季休業					補講 テスト期間					春季休業									

※週の欄の数字は、その週の月曜日の日にち。
 ※黄色が実習期間で、臨地実務実習6週、大学での授業は前期10週、後期12週。
 ※全ての「臨地実務実習ウィーク」で2日以上の実習を行い、前後期それぞれで15日の実習を行う。

学びで広がる世界（進路）

農業経営学科

- 独立就農
- 農業法人
- 農業関連団体 など



時代の流れを読み、
危機を乗り越え、
新しい果樹の
ビジネスを展開。

臨地実務実習先紹介 2

震災を機に6次産業化を推進。 コロナ禍も続々アイデア実現で乗り越える。

この観光果樹園には、かつては大型バスが次々と詰めかけました。しかし東日本大震災で来園者は激減し、さくらんぼの多くを廃棄することに。しかし廃棄するのは忍びないと冷凍さくらんぼやさくらんぼ果汁を活用したソフトクリームを開発し、2015年のカフェのオープンと同時に、敷地内のブレハブで販売したところ年間6,000個を売り上げました。さらにソフトクリームを使用したフルーツパフェは、年間20,000個売れるヒット商品に。その後6次産業化は地元の酒造会社やお菓子店と連携した商品開発へつながりました。コロナ禍を機に通信販売を強化し、減少した観光農業事業の売上をカバーしました。自販機やウェブサイトを使った企画などアイデアは尽きることがありません。



株式会社やまがた
さくらんぼファーム
代表取締役
矢萩 美智

PROFILE
株式会社やまがたさくらんぼファーム
山形県天童市大字川原子1303番地
<https://www.ohsyo.co.jp/>

Pick Up Curriculum

先端農業技術論

AIやドローン、ICTなどに代表される農業分野での技術革新が進む中、この新たな技術を取り入れた生産性・収益性の高い農業の実践が求められています。本科目では、各分野の専門家を招いて、先端技術の活用に向けた研究開発等の状況やその内容等について学びます。

農業経営分析・計画

農業経営は、経営状況の把握・分析をしっかり行い、それに基づいて適正な経営計画を立案し、確実に実行していく必要があります。本科目では、経営分析や経営計画の考え方や手順、コンピュータを利用したデータ処理の技術を学びます。

農山村活性化論演習（両学科共通）

農山村の特徴を活かしながら、持続可能な農業または森林業や地域のあり方を考えるためには、生産者や経営者としての視点だけでなく、生活者である地域住民の視点で物事を考えていく必要があります。本科目では、山形県内の農山村集落の住民との交流や、ワークショップなどのフィールドワークにより地域活性化の実践的手法等を学びます。

取得を目指せる資格一覧

- 小型車両系建設機械（整地、積み込み、運搬）特別教育
- フォークリフト運転技能講習
- 大型特殊自動車免許（農耕用）
- 刈払機取扱作業員（刈払機取扱作業員安全衛生教育修了）
- 日商簿記検定（2級）※1
- 食の6次産業化プロデューサー（レベル3）※2

※1 試験範囲を網羅した授業を実施。資格取得のためには検定試験を受験して合格する必要がある。
 ※2 指定の科目を履修することで、資格取得の要件が満たされる。資格取得を希望する場合は、資格審査事務局に申請する必要がある。

取得学位について

農業学士
 （専門職）

農業経営学科 カリキュラムマップ

		1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
○科目 単位	基礎 (20)	■ 地域等の特性 (4単位) 山形・東北の風土・伝統文化(2)			
		■ コミュニケーション能力 (6単位) (自由)英語基礎(2) コミュニケーション論(2)	ビジネス英語Ⅰ(2)	ビジネス英語Ⅱ(2)	
		■ 一般教養 (人間と自然・スポーツ・社会・情報) (10単位) スポーツ(1)	SDGsと倫理(2) 2単位を選択 気象・気候学概論(2) 統計学(2)	情報活用(1) 2単位を選択 政治学概論(2) 社会学概論(2) 法律学概論(2)	経済学入門(2)
		■ 生産理論・技術 (30単位) 土壌・肥料学(2) 農業概論(4) 耕畜連携論(1)	農業概論演習(2) 2単位を選択 植物保護学(2) 家畜衛生学(2)	先端農業技術論(1) 2単位を選択 栽培各論(稲作)(2) 栽培各論(果樹)(2) 栽培各論(野菜・花き)(2) 飼育各論(畜産)(2)	
		■ 経営全般 (43単位) 農業実地体験実習(1)		農場実習Ⅱ(稲作)(8) 農場実習Ⅱ(果樹)(8) 農場実習Ⅱ(野菜・花き)(8) 農場実習Ⅱ(畜産)(8)	
職業専門 (79)				SDGsと農業・森林業(2) 臨地実務実習Ⅰ(生産管理等)(8) 国際農業論(1) (自由)国際農業・森林業実習(2)	
	■ 地域課題解決能力 (6単位)			農業生産工程・食品衛生論(2)	
	■ 応用的・創造的能力 (24単位)			2単位を選択 東北の稲作(2) 東北の果樹(2) 東北の野菜・花き(2) 東北の畜産(2)	
展開 (24)				講義(必修:2年後期、選択:1~4年前期); 2単位、演習(1~4年後期); 2単位、実習(3年通年); 2単位 食品製造・販売(2)	
	■ 総合的能力 (4単位)	デザイン論(偶数年度開講) デザイン論演習(偶数年度開講) 金融論(奇数年度開講) 金融論演習(奇数年度開講) 発酵学・醸造学(偶数年度開講) 発酵学・醸造学演習(偶数年度開講) 建築学(奇数年度開講)			
(4) 総合					

学問理論と現場の実践。

研究者教員と実務家教員がハイブリッドな教育研究をサポートします。

農業経営学科では稲作、果樹、野菜・花き及び畜産の各専攻分野に研究能力のある教員と実務能力のある教員を配置するほか、養成する人材像に関連の高い農産加工及び経済・経営の専任教員も配置し、理論と実践とを関連づけて学べるハイブリッドな教育研究ができる体制を確保しています。

例えば、
こんな研究をしている
教員がいます

- 農林業の生態系循環と地域産業の活性化に取り組む教員
- さくらんぼの育種や栽培に長年取り組み、新品種の育種を数多く行った教員
- 和牛肉の食味の見える化の研究等を通じ、多数の特許等を取得している教員

農業経営学科の定員及び専任教員

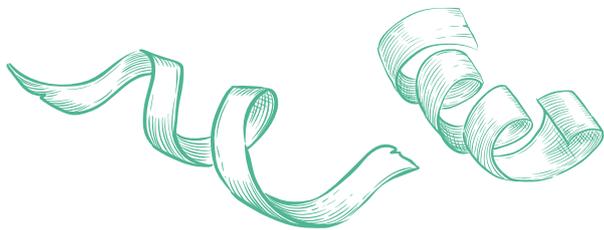
農業経営学科	入学定員	収容定員	専任教員			教員数計
			学部長・学科長	研究者教員	実務家教員	
	32	128+4	1	7	11	19

課程

卒業単位：127単位

3年		4年	
前期	後期	前期	後期
哲学と東北(2)			
農業政策(2) 組織マネジメント論(2) 農業経済学(2) 臨地実務実習II(経営管理等)(8) どちらか1つの履修時期を選択	マーケティング論(2) 農業経営分析・計画(2) 税制・簿記論(1) (自由)国際農業・森林業実習(2)	簿記各論(1) 臨地実務実習III(経営総合)(8)	
農業知的財産論(1)			
農山村活性化論(2) 農山村活性化論演習(2)			
※講義12単位と演習・実習12単位を選択			
建築学演習(奇数年度開講) 社会福祉論(偶数年度開講) 社会福祉論演習(偶数年度開講)	栄養学(奇数年度開講) 栄養学演習(奇数年度開講)	山形・東北観光学(奇数年度開講) 山形・東北観光学演習(奇数年度開講)	経営分析・計画演習(4)

…必修科目
…選択科目
…自由科目(自由科目は卒業単位に含まない)



林トーク

学内の「演習林」から

リアルな

キャンパス内にある「演習林」は、多様な樹木や植生があり、ここで様々な演習が行われます。入学したばかりの4月には、先生と一緒に皆で山菜狩りを体験。その後は天ぷらにしてと、まずは楽しく森の恵みを堪能するイベントから始まりました。これからこの演習林で基本的な技術と知識を身につけ、2年次から始まる実際の山林の現場での臨地実務実習を楽しみにしています。

実習が始まる。

学生がホッポで 森林業経営学科



佐々木 勇斗

秋田県立横手清陵学院高等学校出身

黒澤 成斗

山口県立山口中央高等学校出身

林業から、「森林業」へ。

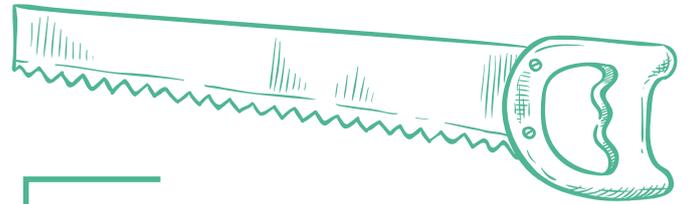
山林の多様な

本学で初めて知った「森林業」という言葉。山林の生み出すビジネスの可能性をより多角的に表すことから「森林業」を掲げていることに納得しました。木材資源の利用が中心だった林業に加え、きのこ、山菜、木炭などの生産、さらに環境保全としての役割、森の癒し効果を活用する健康ビジネス、観光ビジネスなど森林業の可能性は無限です。私たちも新しい時代を意識して、森林と人間のあり方を学び、森林の新しい価値を見出していきたいと思っています。

可能性を学ぶ。



語る！
のここに注目！



スマート林業

が革命を起こす。最新の機器を活用する

近年大型のロボットのような「林業用重機」が各地の山林で活躍し始めています。少人数で山林の手入れから木材の伐採、加工、搬出までが可能になる最新機器を活用することで、森林業経営に私たち若い世代からも注目されつつあります。また広範囲の山林をIT技術を活用して管理する「スマート林業」など、私たちが学ぶ情報化によって、東北や日本の山林が生み出す価値はさらに高まっていくはずと未来に希望を持っています。

森林業経営を学ぶ。



工藤 遼祐
宮城県田尻さくら高等学校出身

齋藤 優大
山形県立村山産業高等学校出身

地域の森林を見つめながら、

私たちは「農山村活性化論」で東北の山林が持つ可能性と、地域の活性化について学んでいます。

地域の山林を長期にわたって維持、管理しながら事業を大きく展開するには世界を意識することも必要なはず。1年次から必修のビジネス英語、「国際森林業論」などでグローバルな視点を身につけることが、将来多様な森林業を展開していく力を育む第一歩になると信じています。

世界のマーケットを
目指して考える。



| 森林業経営学科で学ぶ

森林が生み出す可能性を、
多様なビジネスとして展開できる経営者へ。

森林の豊かな力を活用して、 新しいビジネスを展開しよう

森林が多様な価値を持っていることに誰もが気づいています。木材やきのこなどの生産に加え、美しい景観を形づくるとともに、湯水や洪水の緩和、山地災害の防止、地球温暖化防止などの生活環境の保全、レクリエーションの場の提供など様々な機能を持っています。山林が私たちの暮らしや健康を支え、色や文化の源泉となっていることが評価されるようになったのです。

今後は、持続可能な開発目標 (SDGs) などの持続可能性や脱炭素、生物多様性の保全などの直面する課題に対応するとともに、木材供給を主体とした「林業」という枠を超えて、森林の様々な恵みをフル活用したビジネスである「森林業」を創出・展開させることが求められています。

森林業経営学科では、演習林や国有林、多彩な経営体における実習などを通して、国内外の先進的な取組みに接する機会が豊富にあります。豊かな森が溢れている山形から新しいビジネスとしての「森林業」のフロントランナーを目指しましょう！

地域とともに成長する 交流の場として

最上地域ではじめての4年制大学である本学では、「森林業」の挑戦を通じて、地域の皆さんとともに、SDGsや持続可能な地域づくりに貢献していきます。国内外の多彩な人材を招いた講演会などの企画も継続的に実施してまいります。

東北農林専門職大学
農林業経営学部
森林業経営学科 学科長

柴田 晋吾
Shingo Shibata

博士(農学)(東京大学)
専門分野:環境資源管理政策

国連食糧農業機関 (FAO)、上智大学教授・大学院地球環境学研究所委員長、ケンブリッジ大学客員研究員等を歴任。参加・協働による政策形成や PES (生態系サービスへの支払い) 等を研究。「森林業」の草分けとしても知られる。著書: 世界の森からSDGs-森と共生し、森とつながる ほか。

先生 × 学生



現場で人の声を聴き、体験し、 自分の頭で考えてほしい。

国土の約7割が森林の日本では、森林や林業は木材生産だけでなく、自然環境や公益的機能の観点からも、私たちが生きていく上で欠かせないものです。皆さんのような若い世代がそれら学び、これからの環境を考え、次世代につないでいくことはとても意義深いことだと思います。

本学は実際の生産現場、企業、経営体で活躍できる人材の育成を目指しているところが特色です。できるだけ多くの現場に出向き、自分の目で見て、現場の人の声を聴き、体験を通じて体で感じ、自分の頭で考える。学生にはこれを繰り返しながら学んでほしいと考えます。実務家の教員も配置されていますから、実習を通じてスキルを身につけ、社会の問題を解決できるようになってくれるはずです。

森林業経営学科 講師 古澤 優佳

「森林業」という 新しい可能性に夢を託して。

高校生の時、最上地域に4年制の大学ができるという情報に触れたことが興味を持つきっかけです。高校で学んだことを大学でレベルアップしたいと思っていたのですが、この大学で「林業」ではなく「森林業」と謳っていたところに新たな可能性を感じました。これからの時代に通用する最新技術や知識を身につけられるのではと考え進学を決めました。

入学してみると規模も内容も自分の想像以上に充実していると感じました。また経験豊富な先生方が、学生の学びたいという思いを日々応援してくれることでやる気がさらに湧いてきます。

そして志を同じくする仲間たちと数多く出会えたことも心強く感じます。第1期生ということで、これから私たちがこの大学の歴史を創っていくのだと語り合っています。

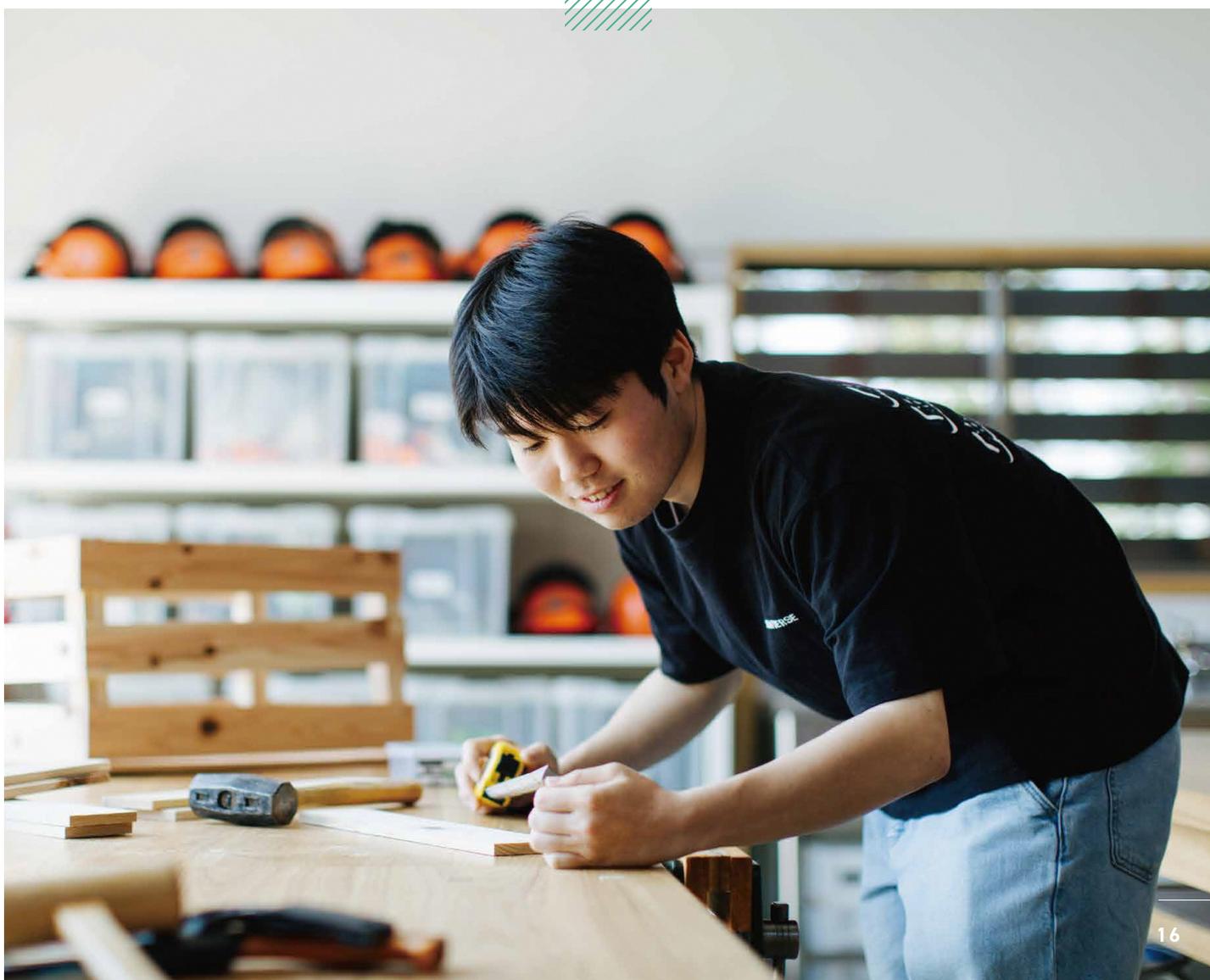
知識や実技を4年間しっかりと学び、将来は地元の村山市で、自然環境を生かしたグランピング施設を造るなど新しいビジネスに挑戦してみたいと思っています。

農林業経営学部 森林業経営学科

齋藤 優大

Yudai Saito

山形県立村山産業高等学校出身

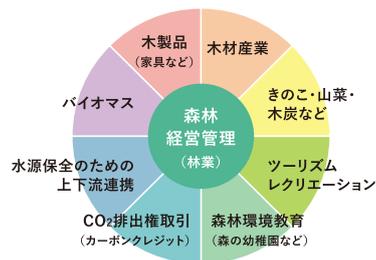


森林業経営学科

森林業の新しい価値を創造していく人材を育てる。

森林業経営学科では、従来の林業より幅広い、林業を起点とした森林資源のフル活用に取り組む「森林業」の分野で活躍できる人材を育成します。環境問題や国際情勢の変化にも対応できる経営センスと、様々な機器の進歩をチャンスと捉えられるポジティブに考えられる人材を育成していきます。

「森林業」の概念
※林業を起点とした森林資源のフル活用



林業を起点とした森林資源のフル活用に取り組み、時代の要請に応えるビジネスを構築。

学科の特長

1

森林業の「生産管理」と「経営管理」の両方の理論を学べます。

現場では機器の飛躍的な進歩により自動化、省人化が進み、労働環境も大きく変化しています。基礎から先進的な生産技術まで理解できるよう多角的なカリキュラムを用意しています。またしっかり事業として運営していくために、経営に関わる知識も学びます。さらに時代の動き、国際情勢を理解することなど柔軟な対応力を身につけることも大切なポイントです。

学科の特長

2

学内外での豊富な実習で学べます。

学内実習	学内演習林で基礎から先進的なものまで生産技術を学ぶ。学内加工施設で木材・加工・販売を学ぶ。
実地体験実習	優れた森林業事業体で経営実態の理解を深める。
臨地実務実習	東北6県の森林業事業体で、生産技術及び経営管理に関する知識、技術、経営戦略等を学ぶ。
国際農業・森林業実習(自由科目)	海外の大学や先進森林業地で森林業経営の実態を学ぶ。

学科の特長

3

幅広い分野が学べます。

本学科では森林業に密接に関連する分野も学修することができます(例えば、森林生態系サービス保全利用論など)。これらは将来の事業展開や経営のさらなる発展につながる可能性があります。

「臨地実務実習」は2年次から4年次まで毎年30日×3＝計90日間



林業ビジネス、新しい働き方など、可能性は多様です。

臨地実務実習先紹介 1

変革期にある森林事業。その現場をリアルに体験してほしい。

有限会社庄司林業は県土面積の約7割が森林という森林王国・山形にあって、村山地区を中心に国有林、民有林の森林環境保全整備や育種管理事業を行っています。また消費者向けに食器類などの木製品や樹木系アロマオイルなど事業展開の多様化も試みています。森林に関わる仕事は近年、特殊大型機械の導入によってかなり省人化され、レーザー測量、森林情報管理のデジタル化なども進み、まさに変革期にあるといえるでしょう。当社で実習される方にはリアルな体験をしていただける環境を準備したいと思っています。



有限会社 庄司林業
代表取締役社長
庄司 樹

PROFILE
有限会社庄司林業
山形県西村山郡大江町大字沢口
842-12
<https://shoji-forestry.jp/>

4年間の学びのイメージ

4年

これまで学んだ生産管理及び経営管理の学びなどを**総合化**し、就職に備える。

3年

森林業経営に必要となる**経営管理**の学びを深める。

2年

自らが将来経営の軸にしたい分野を中心とした**生産管理**の学びなどを深める。

1年

森林業の**分野全般**にわたる講義・演習と実習などを通じ、自分が将来的に経営したい分野への理解を深める。

令和7年度学年暦イメージ

← 前期 →															← 後期 →																																												
4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月					1月					2月					3月				
1	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	2	9	16	23	2	9	16	23				
ガイダンス					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					補講 テスト期間 夏季休業					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					臨地実務実習 ウィーク					冬季休業					補講 テスト期間					春季休業									

※週の欄の数字は、その週の月曜日の日にち。

※黄色が実習期間で、臨地実務実習6週、大学での授業は前期10週、後期12週。

※全ての「臨地実務実習ウィーク」で2日以上の実習を行い、前後期それぞれで15日の実習を行う。

学びで広がる世界（進路）

森林業経営学科

■ 森林組合 ■ 素材生産事業体 ■ 製材・木材加工事業体 ■ 森林業関連団体・企業 ■ 官公庁 など



地域資源としての山林は、
ずっと昔からSDGsです。

臨地実務実習先紹介 2

地域の山々を守りながら 多彩に事業展開する製材メーカー。

SDGsというキーワードをよく聞くようになりました。しかし元々山形の山々の木々は先祖が切っては植えながら活用してきた持続可能な資源です。1本の苗木を植えてから利用できるまで60年と、人間の一生の時間ほど。だからこそ大切に活用し、山々の環境を守ることに還元していかなければなりません。株式会社庄司製材所はより無駄なく効率的に木々を活用できるアイデアをメーカーに提供し、大型の製材機械の開発にも協力しています。また端材等を活用した木質バイオマスに商品も好評です。さらに木材の直販店、ウッドショップマルエスなど多彩に事業展開しています。



株式会社 庄司製材所
代表取締役
庄司 和敏

PROFILE
株式会社庄司製材所
山形県最上郡真室川町大字
大滝108-2
<https://maruesu.yamagata.jp/>

Pick Up Curriculum

先端森林業技術論

近年はスマート林業の取組みや林業イノベーションが進み、AIやICTを利用した先端技術の複合化によって、造林から流通に至る全段階で効率的な管理・運営を行い、需給予測または木材のオンデマンド供給に基づく収益性が高い森林業経営が求められています。本科目では、研究開発等の状況を踏まえ、先端技術（ICT、レーザー森林解析、ロボットなど）の活用方法などについて学びます。

森林生態系サービス保全利用論

生態系のさまざまな恵みのことを生態系サービスと呼んでいます。持続可能な社会の構築のためには、これらの生態系サービスを最大限生かしていく必要があります。本科目では、森林生態系サービスの保全利用に関する基礎的な知識を学ぶとともに、森林サービス産業などの新ビジネスの創設やPES（生態系サービスへの支払い）について学びます。

SDGsと農業・森林業（両学科共通）

農業と自然環境との共存は重要であり、農地・森林環境は食料・木材等生産物の安定供給という生産機能のほか、人類社会の持続可能な発展や地球環境の保全等において多面的な機能を発揮しています。本科目では、農業・農村の有する多面的機能、森林環境の提供しているさまざまな生態系サービスや持続可能な農業・森林業へ向けた取組みの進め方や、農林業生産に起因する環境問題とその対策について考え、SDGsの達成・実現に向けた農業・森林業のあり方について学びます。

取得を目指す資格一覧

- 刈払機取扱作業者（刈払機取扱作業者安全衛生教育修了）
- チェーンソーによる伐木造材作業等の特別教育
- 小型車両系建設機械（整地、積込み、運搬）特別教育
- 車両系建設機械運転技能講習（整地・運搬・積込・掘削）
- 伐木等機械の運転の業務に係る特別教育
- 走行集材機械の運転の業務に係る特別教育
- 簡易架線集材装置の運転又は架線集材機械の運転の業務に係る特別教育
- 赤十字救急法基礎講習（赤十字ベーシックライフサポーター認定証）
- 赤十字救急法救急員（赤十字ファーストエイドプロバイダー認定証）
- 日商簿記検定（2級）※1
- 森林情報士2級（森林GIS）※2

※1 試験範囲を網羅した授業を実施。資格取得のためには検定試験を受験して合格する必要があります。
 ※2 指定の科目を履修することで、資格取得の要件が満たされる。資格取得を希望する場合は、資格審査事務局に申請する必要があります。

取得学位について

森林業学士
（専門職）

森林業経営学科 カリキュラムマップ

科目 単位	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
基礎 20	■地域等の特性(4単位) 山形・東北の風土・伝統文化(2)			
	■コミュニケーション能力(6単位) (自由)英語基礎(2) コミュニケーション論(2)	ビジネス英語I(2)	ビジネス英語II(2)	
	■一般教養(人間と自然・スポーツ・社会・情報)(10単位) スポーツ(1)	SDGsと倫理(2) 2単位を選択 気象・気候学概論(2) 統計学(2)	情報活用(1) 2単位を選択 政治学概論(2) 社会学概論(2) 法律学概論(2)	経済学入門(2)
職業専門 84	■生産理論・技術(32単位) 森林土壌・樹木学(2) 造林学(2) 森林生産学(2) 森林労働安全衛生論(1) 演習林実習I(8)	非木材森林産品概論(1) 森林保護学(2) 森林保全学(2)	測量学(2) 森林情報学(1) 演習林実習II(8)	先端森林業技術論(1)
	■経営全般(46単位) 森林業実地体験実習(1)		臨地実務実習I(生産管理等)(8) 木質科学概論(2)	SDGsと農業・森林業(2) 国際森林業論(1) (自由)国際農業・森林業実習(2) 木材利用論(2)
	■地域課題解決能力(6単位)		講義:2単位、演習:1単位、計3単位を選択 東北の森林資源管理(2)	2単位を選択 東北の森林資源利活用(2)
展開 24	■応用的・創造的能力(24単位) デザイン論(偶数年度開講) デザイン論演習(偶数年度開講)	金融論(奇数年度開講) 金融論演習(奇数年度開講)	講義(必修:2年前期、選択:1~4年前期):2単位、演習(必修:2年後期、選択:1~4年後期):2単位 森林生態系サービス保全利用論(2)	森林生態系サービス保全利用論演習(2)
			発酵学・醸造学(偶数年度開講) 発酵学・醸造学演習(偶数年度開講)	建築学(奇数年度開講)
総合 4	■総合的能力(4単位)			

大学としての学問理論と森林業の現場の実践。

研究者教員と実務家教員がハイブリッドな教育研究をサポートします。

森林業経営学科は森林資源管理及び森林資源利活用の各専攻分野に
研究能力のある教員と実務能力のある教員を配置し、
理論と実践とを関連づけて学べる、ハイブリッドな教育研究ができる体制を確保しています。

例えば、
こんな研究をしている
教員がいます

- 森林の多面的機能に資する森林を造成する技術や生態系を管理する技術を研究している教員
- スマート森林業実施のための先端の森林施業技術を研究している教員
- 森林サービス産業と革新的な森林ビジネスを研究している教員

森林業経営学科の定員及び専任教員

森林業経営学科	入学定員	収容定員	専任教員			教員数計
			学科長	研究者教員	実務家教員	
	8	32+4	1	4	4	9

課程

卒業単位：132単位

3年		4年	
前期	後期	前期	後期
哲学と東北(2)			
森林環境政策(2)	マーケティング論(2)		
組織マネジメント論(2)	森林業経営分析・計画(2)		
森林経営管理学(2)	税制・簿記論(1)	簿記各論(1)	
臨地実務実習II(経営管理等)(8)			臨地実務実習III(経営総合)(8)
どちらか1つの履修時期を選択	(自由)国際農業・森林業実習(2)		
	木材加工・販売実習(2)		
	農山村活性化論(2)		
	農山村活性化論演習(2)		
※講義12単位と演習12単位を選択			
建築学演習(奇数年度開講)	社会福祉論(偶数年度開講)	社会福祉論演習(偶数年度開講)	栄養学(奇数年度開講)
			栄養学演習(奇数年度開講)
			山形・東北観光学(奇数年度開講)
			山形・東北観光学演習(奇数年度開講)
			経営分析・計画演習(4)

…必修科目
…選択科目
…自由科目(自由科目は卒業単位に含めない)

BIG FIELD 広大な学びのフィールドが誕生しました。

美しい山形の田園風景の中に新しいキャンパスが誕生しました。

高等教育機関にふさわしいアカデミックな佇まいが、風景に調和して

未来への希望を感じさせます。

広大な圃場や演習林など贅沢ともいえるほどの実習環境を備えています。

果樹園

圃場



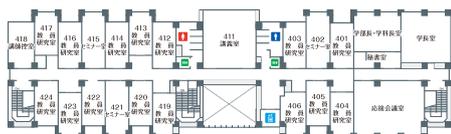
演習林

CAMPUS MAP

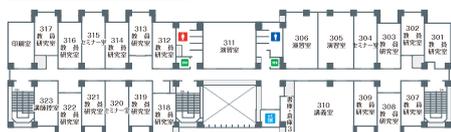
施設・キャンパス紹介



教育・研究棟4F



教育・研究棟3F



教育・研究棟2F



交流棟2F



教育・研究棟1F



交流棟1F



大講義室

キャンパス図

2年制の
附属農林大学校も
同じキャンパスに
併設されています。





大学附属施設

スマート農業 研究・研修センター



農業経営の大規模化、稲作や野菜・花き栽培の省力化、多収、高品質化の実現をめざしてリモートセンシングや生育環境モニタリング装置を備えた施設。本学の教員と農業経営体などが連携して環境モニタリング方法をテーマとする研究・研修に取り組みます。

気候変動対応型農業 研究・研修センター

気象災害の激甚化に対応するための屋外気象モニタリング装置などを備えた施設です。本学の教員と農業経営体などが連携して異常低温による霜害の回避、軽減が期待されている低コストのヒーターの効果検証や、効率的な利用技術の開発をテーマとする研究・研修に取り組みます。



スマート畜産 研究・研修センター



畜産分野の経営の大規模化、省力化、高品質化を目指して牛群管理システムや分娩監視装置などの様々なデジタル機器を備えています。東北地方の畜産の生産性の向上に貢献することをめざしています。

スマート森林業 研究・研修センター



森林資源の適切な維持管理や利活用を拡大するため、リモートセンシングやレーザー測量などで集積したデータの解析、ドローンによる森林データの集積及び解析と実証、技術開発に必要な設備・施設を備えています。東北の森林業の事業効率化や、森林業の経営基盤強化、生産性向上に貢献することをめざしています。



学生食堂



ICT・GIS教室



附属図書館



学生ラウンジ

講義室・演習室

- 大講義室(302席)※地域住民等も利用可能
- 専門職大学用:講義室3~6:演習室7~12
- 農林大学校用:講義室1・2:演習室1~6
- ICT・GIS教室

大学教員研究室・学生演習室

- 教員研究室(30室)、学生演習室(6室)

実験室

- 実験室1(品質評価)、実験室2(化学分析)

事務部門

- 学長室、学部長・学科長室、事務局長室、事務室、秘書室
- 農林大学校職員室、校長室、職員更衣室
- 応接会議室、会議室1~3、警備員室、印刷室、書庫・倉庫

医務室等

- 医務室、カウンセリング室

福利厚生施設

- 学生食堂、調理室、自動販売機コーナー
※学生食堂は地域住民等も利用可能
- 学生ラウンジ ■学生更衣室 ■学生自習室

大学附属図書館

- 閲覧席、レファレンスルーム、図書整理室・閉架倉庫
- ※地域住民等も利用可能

附属施設

- 圃場
(水田、畑地、果樹園、野菜・花き(露地、ハウス))
- トラクター練習場
- 畜産実習棟(牛舎)、牧場
- 演習林

学費・奨学金・入試情報



入学料・授業料

入学学査料	入学料	授業料(年額)
17,000円	山形県内者282,000円 山形県外者564,000円	535,800円

※この他、実習実験費等の納付を別途求めることがあります。 ※以上の内容は予定であり、変更となる場合があります。
※大学独自減免制度があります。詳しくは担当までお問合せください。

奨学金情報

■ 文部科学省／高等教育の修学支援新制度(給付型奨学金、授業料等の減免) ■ 日本学生支援機構の奨学金

■ 農林水産省／新規就農者育成総合対策(就農準備資金)

都道府県が認める道府県の農業大学校等の研修機関等で研修を受ける就農希望者に、最長2年間、月12.5万円(年間最大150万円)を交付します

入試情報

東北農林専門職大学では、「学生受入れの方針」を踏まえ、以下の入試内容を適切に組み合わせ実施します。

区分	一般選抜	総合型選抜	指定校推薦型選抜	特別選抜 (社会人、私費外国人留学生)
対象	山形県内外を問わず、農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある者	高等学校等を卒業見込み又は卒業しており、学業成績が評定平均3.5以上で、農業又は森林業に高い関心を持ち、課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある者(旧AO入試)	本学が指定する山形県内の高等学校を卒業見込みで、学業成績が評定平均3.5以上で、農業又は森林業に高い関心を持ち、課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲があると校長が認め、及び推薦する者	社会人:満22歳以上かつ勤務経験3年以上の者 私費外国人留学生:日本語能力試験でN2以上の成績を修めた者又は相当と認められる日本語能力を有する者
選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト3科目 ・英語(コミュニケーション英語I・II、英語表現I) ・数学(①数学I、②数学I、数学Aのいずれかを選択(旧教育課程①数学I、②数学I・数学A))。 ・理科(①物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎※、②物理、③化学、④生物、⑤地学のいずれかを選択。 ※①の場合、出題範囲4科目から2科目を選択) ●小論文 ●面接 ●調査書 ●志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ●調査書 ●小論文 ●面接 ●志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ●調査書 ●面接 ●志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ●書類 ●面接 ●志望理由書
人数	農業経営学科 10名 森林業経営学科 4名	農業経営学科 10名 森林業経営学科 2名 ※東北6県の高校出身者向けの優先枠を設ける	農業経営学科 12名 森林業経営学科 2名 ※山形県内高校から推薦	農業経営学科 各1名 森林業経営学科 各1名 ※総合型選抜の内数
日程	出願期間:2025.1.27~2025.2.5 試験日:2025.2.25	出願期間:2024.9.2~2024.9.13 試験日:2024.10.5	出願期間:2024.11.1~2024.11.8 試験日:2024.11.23	出願期間:2024.9.2~2024.9.13 試験日:2024.10.5

入学者選抜要項は大学のホームページ(<https://tpuaf.ac.jp/university/>)から取り寄せることができます

就職支援情報

就農・就業等に向け、学内に「キャリアサポート・研修センター」を設置し、関係機関等と連携して強力にサポートします。

- **在学中の支援** 学生のキャリア形成支援として、1年次から4年次まで体系的に農林業分野のキャリア教育講座を開講します。講座では、本学の教育課程の学修段階に応じ、山形県内外の農林業経営者を招いてのキャリアセミナーを開催するなど、本学卒業後の農林業分野への就農・就業に向けた職業意識の醸成や社会人としての責任及び自覚を促すプログラムを設けます。
- **就農・就業に向けた支援** 山形県において農林業への就農・就業支援を担っている公的機関と連携し、常時学生からの相談に応じ、卒業後のスムーズな就農・就業に向けた支援を行います。また、山形県内では、「就農応援宣言・積極採用宣言」を行うなど、農林業界、行政、地域が連携し、学生の就農・就業をサポートします。
- **卒業後の支援** 卒業生がさらにキャリアアップするための、卒業後の段階に応じた農林業経営者向け研修プログラムの実施や、職員による卒業生の定期訪問活動など、県の農林業の普及指導員による技術等の普及・指導等により卒業後も継続的にサポートします。

教員情報

農業経営学科

教授 阿部 和幸

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶葉研究部門 果樹品種育成研究領域長などを歴任。
●果樹の各樹種に関する品種改良・栽培生理・果実の貯蔵に
関する技術開発の状況/生産・流通の現場における開発技術
「食味が良く外観の美しい果物は暮らしを豊かにしてくれます。そのような魅力ある果物を生産する上で、果たしてどのような栽培技術が駆使され、また特長ある品種が利用されているのでしょうか?本学では果樹園芸学と高品質果実生産技術について、基本から応用、先端技術までを実践的に学ぶことができます。人々の暮らしに彩りを与える果樹に関わる新しいビジネスを将来ぜひ展開してほしいと思います。」

教授 古野 伸典

山形県立園芸試験場野菜花き研究部研究員などを歴任。
●積雪寒冷地における園芸用温室の熱収支解析/栽培中に
燃油をまったく使わないパワフル栽培/光センサーを利用した
えだまめの品質評価と栽培改善
「社会や世界が大きく変化している今、若い世代の柔軟な発想力、企画力が求められています。この活躍のスマート農業、まさに異分野技術の融合で生まれた新しい技術です。園芸分野でもIT技術を駆使した新たな農業経営が続々と生まれています。既成概念にとらわれずに新しい発想で、次代の技術を生み出し、ワクワクするようなビジネスを創り上げましょう。」

教授 黒瀧 秀久

東京農業大学生物生産学部自然経営学教授などを歴任。
●農業を経済学、経営学の視点からの研究
「私の担当する農業理論、農山村活性化論、農業政策などは、農業の政策を歴史的に学び、現在に至るまで日本の農業を地域全体から活性化するために、学びながらその具体的な学生生活を一緒に考えたい科目です。現場で実践的に農業の再生を図る担い手を育成する東北唯一の大学であることを認識して、研究教育に学生諸君が挑むことを期待しています。」

教授 是川 邦子

山形県立農林大学校教授などを歴任。
●農業を起点とした多様な展開(6次産業化)に関する研究/
●農産物販売に関する研究/女性農業者の組織活動に関する研究
「食品加工をはじめ、農業生産を起点とした多様な展開(6次産業化)は、新たな農業経営を切り拓くチャレンジです。そして、さまざまなアイデアを持つ人材が活躍できる分野といえます。本学は規模が小さいから、学生と教職員との距離が近く、友人や地域の皆様ともたくさん語り合えるアウトホームな大学です。全身全力で最上地域を堪能する4年間を過ごしてください。」

教授 齊藤 邦行

岡山大学工学部環境生命自然科学学域 特任教授・
名誉教授などを歴任。
●水稲・ダイズ品種の多収性の解析/地球温暖化が作物生産に
及ぼす影響/水稲有機栽培に関する生産生態学/作物の
物質生産に及ぼす呼吸の影響/水稲の窒素利用効率の向上/
ダイズの耐倒伏性向上に関する研究
「環境保全と地方維持を前提とした圃場作物の多収性・高品質・安定・低コスト・安全安心・持続性に調和のとれた作物生産技術開発を目標としています。AIやロボット、IoTといった先端技術を活用したスマート農業技術、温暖化など気候変動に適応した品種や栽培技術、温暖化ガス削減栽培技術、持続可能な有機農業技術の開発や普及が喫緊の課題です。」

教授 佐藤 武義

山形県園芸試験場研究員などを歴任。
●トルコキョクの光合成特性、光形態形成反応及び日長反応
特性の解析と生産技術に関する研究/タケノコ(タケノコ)
ピエラム(スノーボール)の休眠打破技術に関する研究/新規の
切り花や切り枝類等の生理生態的解析と生産技術に関する研究
「園芸、農業は生き物であり、日々発展しています。バイオサイエンスの最新の知見等を活かし、園芸、農業の発展方向を見据えて、学修を深めるとともに自らの将来像の描きかたを、将来、活躍する分野において大切に。経営理念を持ち、自分に適した個人として成長を目指すことが大切と考えます。新しいアイデア、新たな交流、五感の育み、知識の蓄積、地域文化の享受等のさまざまな魅力がふたれています。」

教授 胡 柏

愛媛大学教授などを歴任。
●環境保全・有機農業の技術と経営の実態把握、経営拡大に
向けた新規の取組の効果検証、有機農産物の消費形成と
市場拡大の条件解明等に関する研究
「農業は経済的に成り立ち、社会的・環境的に持続可能な産業でなければなりません。新しい時代にふさわしい元氣な農業経営を目指す皆さんと志を共有し、ともに学び、耕していくことを楽しみにしています。また、本学で学んだ知識や技能を活かして農林業経営者または関連産業分野のスペシャリストとして活躍し、自分や高、家族を養い、可能な限り多くの税金を納めて恵まれない人や健全な社会の構築のために役に立ちたいと思います。」

教授 宮坂 篤

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 管理本部技術
支援部九州沖縄技術支援センター 支援センター長などを歴任。
●水稲の病害に関する研究/麦類の病害に関する研究/
新しく発生した病害に関する研究
「作物も私たち人間と同じく健康(健全)であることが何より大切です。作物保護学は、生産物に起因して病害、害虫、雑草から守り健全に育てていく分野です。農業の生産性向上と生物多様性も目指します。作物保護についてぜひ一緒に学びましょう。」

准教授 多田 史人

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 バイオ育種部
専門研究員などを歴任。
●果樹の品種改良を効率化する栽培技術、遺伝子技術(DNA
マーカー遺伝、GWAS解析、ゲノミックセレクション)/果樹における
スマート農業
「果樹栽培の基本から近年開発された品種、栽培技術、遺伝子技術、スマート農業まで、本学の実習や講義で論理的に学び、農業の実践力を身につけていきます。現場実習で共に汗を流した友人たちとは、卒業後も仕事を一緒にして上での関わりを持つことが出てくると思います。卒業だけでなく、ぜひ農業関係の仕事をしていっての一生の友人づくりにも励んでください。」

准教授 塩野 宏之

山形県農業総合研究センター食の安全環境部
専門研究員などを歴任。
●土壌中の養分を考慮した適正施肥に関する研究/地
域の未利用有機質資源を土づくりに利用する研究/
水田から発生する温室効果ガス(メタン)を削減する研究
「土壌・栽培は、土壌微生物等を対象としたミクロなことから、地球環境等のマクロなまで扱う幅広い学問です。この魅力ある分野について、ぜひ学んでみませんか。本学では県内外の優れた農林業経営者で、現場の活きた技術、経営を学ぶことができます。農林業を基礎としながら、友人や地域の人と積極的に関わりを持ち、人生でかけがえのない4年間を過ごしてほしいと思います。」

准教授 石黒 亮

農業総合研究センター園芸農業研究所長などを歴任。
●寒冷地果樹(オウトウ、セイヨウナシ、リンゴ等)を中心とした品種
開発、各主要形質の遺伝様式、成熟生理、樹体生育に関する
研究/寒冷地におけるカンキョウの生育、果実特性に関する研究/
加工用果実生産、利用に関する研究
「果樹栽培において、共通の基本技術以外、正解はありません。いろいろなアプローチから突き出されるやり方があるはずで、それは果樹樹にたくさんあはずです。皆さんと一緒に果樹園で答え探しをしましょう。また臨地実習で現場の実学も学ぶことができます。先進農業者の方々と対話や行政施策の中から栽培技術、販売戦略などの課題解決方法を学びましょう。」

准教授 齊藤 政宏

(独)家畜改良センター生産衛生部長などを歴任。
●肉用牛・乳用牛・豚等の家畜の診療/牛の受精卵移植・
人工授精に係る調査研究/農場防疫の強化/
家畜伝染病の浄化対策/これらに係る海外技術協力
「近年、国内外で猛威を振るう重大な家畜伝染病の侵入を防ぐため畜産関係者は、家畜伝染病対策に厳しく取り組んでいます。また消費者からは、畜産物の安全・安心を高める声が高まっています。そのうち、家畜衛生学では、畜産産業にとって必須の家畜伝染病の侵入防止対策、生産性及び安全性の向上のための衛生管理、さらにアンリアルワールド・SDGsへの配慮の取組等を扱ってまいります。」

准教授 柴田 康志

農業総合研究センター水田農業研究所研究主幹などを歴任。
●水稲や大豆の栽培技術の研究や普及
「水稲」「大豆」の栽培マニュアルを作成。
「圃場実習で水稲や大豆の栽培技術を担当します。これからの東北の農業に新しい風を吹かせる若い人材を育成していきたいと考えています。大学ではどんな分野でも興味を持ったことに、積極的にチャレンジしてほしいと思います。「儲かる農業」、「地域を支える農業」、「環境にやさしい農業」など新しい農業のあり方を探究しましょう。」

准教授 吉仲 怜

弘前大学農学生命科学部助教。
●農業経営学/農業経営学/農業6次産業化/
地域農業の担い手と農業労働力問題/果樹物の経営評価/
水田作経営の経営戦略/農村RMO等の育成支援
「農林業は、技術の特性の理解のみならず、経営・販売(マーケティング)戦略や財務・制度・社会環境の把握など、マネジメントの視点も重要です。ここでは学業を通して学びつつ、臨地実習を通じて現場で活躍する農林業経営者に学べるチャンスがあります。現場での農林業を通じた4年間の学びは、将来どのようなキャリアでもきっと活かされるはずです。」

准教授 庄司 則章

山形県農業総合研究センター畜産研究所
開発研究員などを歴任。
●山形牛・米沢牛の遺伝学分析からその特徴を明らかにする
研究、及び飼養管理に関する研究
「臨地実習を通じて、生産者から実践的な技術や経営方針を学ぶことができます。そして、それぞれの生産者が抱える課題を肌で感じることができ、課題解決のための知識は、通常の農学部ではほぼ取り扱いません。研究により課題解決する事例が多岐にわたるため、日本の農業を元気にしていくとともに、東北農林専門職大学の存在意義を多くの方々に理解いただけたらと思います。」

講師 高尾 模一

山形県農業総合研究センター畜産研究所
主任専門研究員などを歴任。
●家畜の飼料に関する研究/家畜の飼養管理に関する研究
「山形県は食材の宝庫と言われています。地域の皆さんも将来おいしい農畜産物を生産販売できるプロフェッショナルとして活躍できるよう、本学では臨地実習実習により生産現場や経営管理の場に長期的に触れることができるのが大きな特色です。自然や生き物に関心のある方には、農業を学び体験し、達成感や挫折感を経験することで、自分のやりたいことを見つけてもらえると思います。」

講師 森 和也

山形県農上総合支庁産業経済部農業技術普及課地産地直室
主任専門研究員などを歴任。
●野菜類の省力、高品質、安定生産に関する研究/温暖化や気象
変動に対応するための研究/農業だけではない、病害の抑制、
軽減に関する研究
「栽培、生産理論や技術は、農業経営を発展させるための重要な要素で、必要な知識や技術は幅広く、奥深いものです。基本をしっかり修得し、応用できる人材をめざして学びたい。また、本学では多様な学生、多様な教員、多様な現場と関わりながら、農業や森林業において成功するための道を模索することができます。ぜひ、頭を柔軟にし、色々なことを体験、吸収し、試行錯誤から多くのことを学んでください。」

講師 鬼島 直子

山形県農業総合研究センター食品加工開発部
主任専門研究員などを歴任。
●米資源の高付加価値活用技術に関する研究/地域特産物を活用
した新しい食品の開発/食品の食感を示す物性の評価方法の開発
「食品の科学は、どんな人にも身近な学問で、日常の食の疑問を解決し自分の生活や健康に役立てることができる。地域の産業となるような新しい食品の開発は欠かせません。新しい知識を学び、一緒に知識を深めていきます。また自分自身社会について深く考える時間を持つてほしいと思います。将来の目標が定まったら、目標に向かって大学を思いっきり活用し、我々教員にもたくさん相談して、使えるものは何でも使ってください。」

森林業経営学科

教授 大久保 達弘

宇都宮大学農学部森林科学科 教授などを歴任。
●生産や環境を目的とした里山林の取扱いおよび農地との
一体的活用に関する育林研究/温帯林から熱帯林の
生態系修復に向けた森林植物の世代交代に関する生態研究
/里山林生態系の環境放射線モニタリング
「樹木では森林を構成する樹木の植物学知識と、樹木を人間がどう活用してきたかを学びます。そこから森林生態系に視点を広げ、樹木が生きていく上で森林を形成することの適応的意義について学び、さらに造林学では森林の持続的管理に必要な森林の取扱いについて学びます。卒業後は森林系公務員、森林組合などの林業事業者だけでなく、全く新しい形で森林業として起業していくなど、幅広い分野にチャレンジし活躍してほしいと思います。」

教授 藤本 登留

九州大学大学院農学研究准教授などを歴任。
●SDG17年等環境目標、および国産農業樹材の適正加工
技術に関する研究/木質利用と環境の両立/高付加価値化技術
に関する研究/各種処理木材の耐久性評価に関する研究
「木材科学、木材利用理論などの産学、木材加工・販売などの演習を担当します。東北における農林業においては、後継者問題が叫ばれている中、実務者養成の4年生大学が誕生することにより、新たな若手従事者・経営者モデルが増えていくことが期待されています。現地実習も多くの学生の良さを活かし、ぜひ自分の視野や人間関係を広げていってください。卒業後は自分で考え活躍していく実務家や経営者として活躍していただきたいと思います。」

教授 堀 靖人

国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所
研究コーディネーターなどを歴任。
●森林を活かした地域の問題解決手法の研究/
●林業や森林緑地の担い手に関する研究/
●DIYの森林と林業に関する研究
「地球温暖化に対する対策は待ったなしです。また、生物多様性やSDGsの実現はこれからの社会には必要不可欠です。持続可能な農林業を確立することはこれらに共通することになります。同時に持続可能な地域経済、社会の実現もつながっています。好奇心を持って、何でも見て聞いて、自分の頭で考えていってほしいです。また、結論(疑問)に対する答えは急がなくてもいいと思います。また一緒に学んだ友達と一緒にのびのびと学びたいと思います。」

准教授 小山 敢

鳥取県林業試験場森林管理研究室長などを歴任。
●林地で発生する土砂災害に関する研究/
●林道・作業道等の適切な整備に関する研究/
●森林労働災害防止のための研究
「森林に関わる仕事は、健康的で人生を豊かなものにしてくれます。このすばらしい森林業の発展のために、林地で発生するさまざまな災害の減災を図るための知識や考方を習得します。インターネットで多くの情報が簡単に入手できる時代ですが、実体験に勝るものはやはりありません。学業の時にしかできないことを心から経験してほしいと思います。そうすればこの4年間の経験が、人生を豊かなものにしてくれると思います。」

准教授 菅沼 秀樹

一般社団法人日本森林技術協会事業部森林情報グループ
専門技師などを歴任。
●温暖化対策としての植林地設計および炭素吸収量評価/
バイオマス発電へのバイオマス燃料供給シナリオ等の分析/
森林生態系の調査・分析(地上計測/リモートセンシング)
「森林業を通して地域の・地帯的な課題を解決しようとする、さまざまな学問分野の知識が必要で(森林生態、植物生理、測測・測量、統計解析、Life Cycle Assessment、土壌学、土壌化学、水文、熱力学、化学工学等)。東北農林専門職大学の講義・演習・実習を通じてその一端でも習得してもらえようと思います。炭素社会は企業活動の足踏みではなく従来のビジネスチャンスです。カーボンニュートラル&ネガティブを実現可能な森林業は、その可能性に溢れています。」

講師 古澤 優佳

山形県森林研究センター 森林資源利用部 主任専門
研究員などを歴任。
●モウクツクの栽培、管理、新たな活用方法の研究/
●山菜類の栽培期間短縮化方法の研究/
●山菜の二次産物の成分分析による付加価値増加に向けた研究/
野生動物被害の調査と防除方法の研究
「山菜やその他の非木材森林産品(特用林産物)は、森林業の中でも数少ない、食に関する分野です。山の恵みを活用する方法と一緒に考えてみましょう。また、最近問題となっている、野生動物人間との関わりについて学んでほしいと思います。できる限り多くの実際の生産現場に向かい、自分の目で見て、現場の人の声を聴き、体験を通じて学びたいです。自分の頭で考える。これを繰り返しながら学んでほしいと思います。」

講師 上野 満

山形県森林研究センター 主任専門研究員などを歴任。
●立地環境の違いによる樹木の生育に関する研究/
目的に応じた森林の育て方に関する研究
「森林・林業の分野は幅広く、個々人の自由な発想によりさまざまな展開が可能です。森林・林業の基礎を学びながら、森林の持つ可能性を広く活用していきましょう。また、森林の産品(目的)を持った森林管理を行うためには、樹木、昆虫、鳥などの生物やそれらを取り巻く環境に関する知識が必要で、森林のさまざまな機能発揮に向けた森林づくりを一緒に考えてみましょう。」

講師 吉崎 明

山形県立農林大学校林業経営学教員などを歴任。
●オズ人林における冠層の発生要因と育林の最適化
技術について/小学校の教員員による学校教育に
関する森林環境学習の進め方について
「森の中で森を感じ、森について考え、森の恵みを私たちの暮らしと結びつける役割をめざす。将来の選択のいつと提案します。現場を大切に、現場から物事を考える森林技術者をめざしていきましょう。また、他の学生や教員、さまざまな分野の方々とのコミュニケーションを通して価値観を広げてください。そこから、新たな展開が見えてくるはずです。」

OPEN CAMPUS 2024

開催スケジュール

第1回 7/14(日)

第2回 7/28(日)

第3回 8/17(土)

今年4月に開設した新校舎で初のオープンキャンパス!

- ① 大学説明
大学の教育内容や施設などの教育・研究環境をご紹介します。
- ② 個別相談ブース
教育内容や学費、想定される進路など、皆さんの疑問点にお答えします。

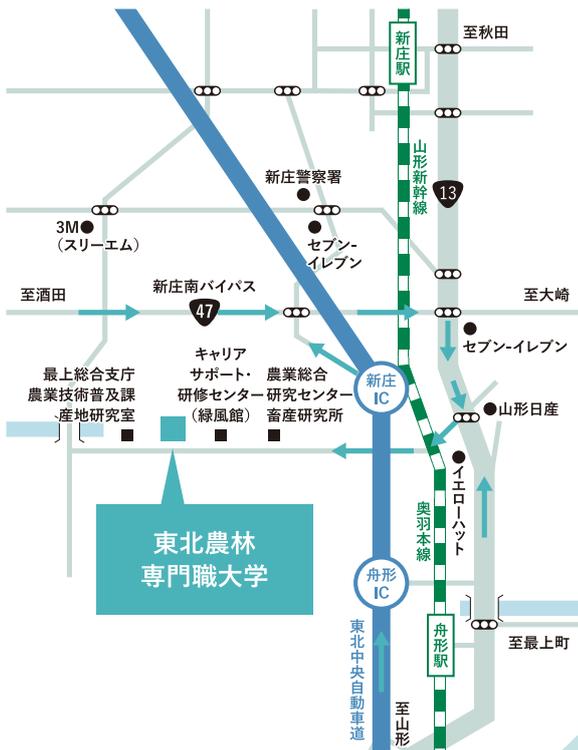
📍 東北農林専門職大学

お問い合わせ先 東北農林専門職大学 教務学生課

TEL 0233-25-8302



詳細はQRコードからHPをご確認ください。
大学の情報も適宜更新していきます。



ACCESS

電車で来学の方

JR奥羽本線新庄駅下車
新庄駅よりタクシー利用約15分
または
山交バス(県立病院～鳥越線)
「専門職大学前」下車

自動車で来学の方

東北中央自動車道
新庄ICを降りて国道13号線へ。
山形日産自動車(株)鳥越店様を
西に約1.4km



東北農林専門職大学

Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry

お問い合わせ先

東北農林専門職大学 教務学生課

〒996-0052 山形県新庄市大字角沢1366

TEL 0233-25-8302 <https://tpuaf.ac.jp/university/>